

14

古典怪談の決定版 『東海道四谷怪談』

番号	所属	年・月・日
	氏名	・

課題一

次の文章は歌舞伎の歴史について説明したものです。空欄に人名や語句を記入して文章を完成させてみましょう。

歌舞伎の始まりは、慶長八年（一六〇三）、京都で出雲の①「」が男装で演じた「かぶき踊」であるとされている。その人気にあやかり、遊女による女歌舞伎や美少年による②「」歌舞伎が生れるが、これらの興行は売色と不可分の関係にあり、幕府は風紀を乱すという理由で前者を寛永六年（一六二九）、後者を承応元年（一六五二）に禁止、以後の歌舞伎は成人男性による③「」歌舞伎となり、内容も容色本位のレビュー的なものからストーリー性を重視したものへと変化する。

元禄時代（一六八八～一七〇四）には、江戸で初代④「」が荒事という勇猛で荒々しい演技術を、上方で作者⑤「」が組んだ初代坂田藤十郎が、柔弱な人物を写実的に演じる⑥「」という芸を始め、さらに享保期（一七一六～三六）以降には、同時代の芸能である人形⑦「」の作品を積極的に摂取して、歌舞伎は演劇としての発展を遂げる。

文化の中心が上方から江戸へと移った文化・文政期（一八〇四～三〇）になると、怪談物を得意とした四代目鶴屋南北が、市井の生活を活写した⑧「」と呼ばれる分野を確立、幕末には盗賊を主人公とした白浪物で才筆を揮った⑨「」が、七五調のかずかずの名ゼリフを世に残した。そして明治を迎え、歌舞伎は急速に推し進められる近代化の中、当時の文化人達が主導した⑩「」運動によって社会的地位が向上、古典化の道を歩み始めることになる。

課題二

次の語句が本文の中でどのような意味で使われているか、答えましょう。

- ① よしなき ② うせた ③ 南無三 ④ こわけだつて ⑤ うかまぬ
- ① () ② () ③ () ④ () ⑤ ()
- ④ () ⑤ () ⑥ () ⑦ () ⑧ () ⑨ () ⑩ ()

課題三

次に挙げる小道具は、劇中誰が持って現れ、どのような使われ方をしているでしょうか。まとめてみましょう。

- ① 守り袋 ()
- ② 廻文状 ()
- ③ うなぎかき ()
- ④ びく ()